

# 大豆栽培技術情報 No. 2「乾燥対策と病害虫防除」

東部振興局 集落営農・農地活用班 0978-72-1141  
令和2年8月31日

## 1. 乾燥対策（畦間灌水）

大豆は、開花期から40～50日間は水の要求量が特になります。

開花期の水不足では、落花、落葉が多くなり、着莢率が低下します。

登熟期の水不足では、粒数、百粒重が減少します。晴天が続く場合は畦間灌水を行い、乾燥を防ぎましょう。

排水不良ほ場では、湿害を起こすことがあるので、注意してください。



畦間灌水の目安	<ul style="list-style-type: none"><li>・晴天が一週間以上続き、土壌が白く乾く。</li><li>・日中、葉の反転が50%以上見られる。</li></ul>
畦間灌水の方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・<b>中耕・培土を行った、排水良好なほ場で実施。</b></li><li>・灌水後に水が溜まらないよう、あらかじめ排水口を整備。</li><li>・気温・地温が下がった朝夕の涼しい時間帯に実施。</li><li>・天気予報に注意（雨が降るのなら、灌水する必要はない）。</li></ul>

## 2. ハスモンヨトウの防除

高温や小雨の場合に、多く発生します。白変葉を見つけたら、早めに防除しましょう。

防除薬剤名	倍率	備考
プレバソンフロアブル5	4000倍	<ul style="list-style-type: none"><li>・収穫7日前まで2回以内。</li><li>・速やかな食害抑制効果。残効が長い。</li></ul>
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	<ul style="list-style-type: none"><li>・収穫7日前まで3回以内。</li><li>・速やかな食害抑制効果。残効が長い。</li></ul>



白変葉



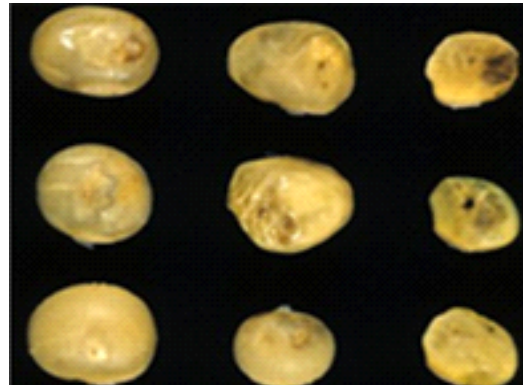
ハスモンヨトウの幼虫

### 3. 紫斑病・カメムシの防除

紫斑病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結実期に雨が多く、涼しい気候が続くと多発しやすい。</li> <li>・種子伝染が主だが、病気にかかった葉・茎・莢も伝染源になる。</li> </ul>
カメムシ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い莢が吸汁されると、落莢・板莢になる。</li> <li>・肥大期に吸汁されると、しわ豆・奇形豆になる。</li> </ul>



種子の病斑（紫斑病）



カメムシによる吸汁害

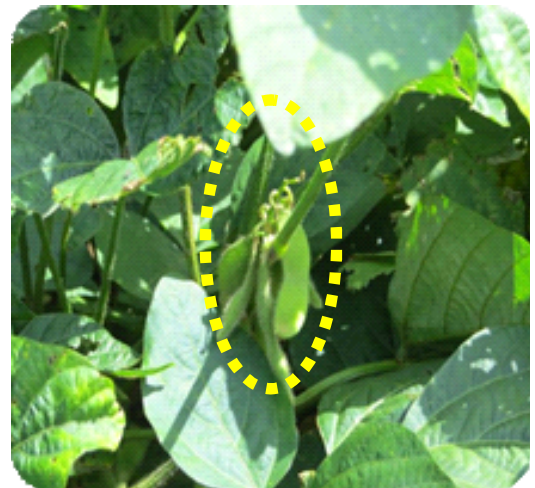
☆防除適期を見のがさず、**必ず2回防除を行きましょう！**

防除適期	防除薬剤名	倍率	対象病害虫	使用回数
幼莢期 (開花期後20日)	アミスター20 フロアブル	2000～ 3000倍	紫斑病	2回以内
	スタークル液剤10	1000倍	カメムシ類	散布は2回以内
1回目の10日後 (開花期後30日)	ベルコートフロアブル	1000倍	紫斑病	4回以内
	トレボン乳剤	1000倍	カメムシ類等	2回以内

\*開花期とは、**4～5割**の株が開花を始めた時期です。



1回目  
幼莢期：莢の平均長が1cm頃



2回目  
1回目の10日後の莢